



## ミュンヘン便り ～雪国仕様～

在宅勤務にもだいぶ慣れてきた感がある今日この頃、在宅勤務の日は朝一番に散歩に行きます。事務所に行くのと同様に一度外に出て歩き回り、頭を仕事モードに切り替えて、いつもと同じ時間に仕事を開始します。この冬二回目の本格的な積雪の次の日も、同様に散歩に出かけました。今年の冬はマイナス10度を下回る寒波が2回来ました。今回がその2回目。一日中雪が降り続いた後、素晴らしい快晴となり、キーンと冷えて雪がぐっと締まっています。こういう雪は比較的歩きやすいですね。踏みしめると、ぐっぐっという音がします。バイエルン州のどこかでは、マイナス26度まで下がったとニュースになっていました。ミュンヘンの街中ですら、マイナス

14度まで下がったのです。

踏み荒らされていない雪で真っ白になったイングリッシュガーデン。簡単に見ることができそうで、実はなかなか見ることができない光景です。特にここ近年は暖冬が続いていたので、こんなに真っ白なイングリッシュガーデンを見るのは、もしかすると筆者は初めてかもしれません。雪の中を騎馬警官がパトロールしている光景は、夏よりもさらに絵になるように感じます。

湖を覗いてみましょう。この湖の対岸にあるレストラン兼ビアガーデンは、ミュンヘンの多くの特許事務所にとって、クライアント



を接待するのに使うのはもちろんのこと、自分たち自身も息抜きに使う御用達の場所です。筆者が最初にこのビアガーデンに来たのは、旧同僚Sが口頭審理で勝利したことを祝してビールでちょっと乾杯するため、でした。ご機嫌の旧同僚Sが湖に常駐している白鳥に唐辛子入りのソーセージをあげたら、白鳥が憤慨して彼を襲ってきたのです。実は白鳥は怒りっぽいのです。ビアガーデンは残念ながらロックダウンで閉鎖中ですが、湖ではいろいろな種類の水鳥を見ることができます。もちろん白鳥も。

湖には氷が張り始めていました。中央付近はまだ凍っておらず、白鳥はしきりに頭を水に突っ込んで魚を探している様子。他の水鳥たちは、氷の上で丸まっています。氷の上のほうが暖かいのでしょうか。

最低気温がマイナス10～14度の日々がさらに続いた後の日曜日、再度湖を覗いてみると、なんと地元の人たちが、アイススケート、アイスホッケー、そりなどで、嬉々としてウィンタースポーツを楽しんでいる！岸辺には「氷の上に乗ること禁止。生命にかかわる危険あり！」と書かれた看板がありますが、堂々と無視。みんな自分のスケート靴やアイスホッケーの道具、そりなどを持っているのですね。筆者も岸に近い位置で氷の上にそっと乗って、下を見下ろしてみました。なんと、水底からぷくぷくと泡が上がってきている。ということは、水底まで凍っているわけではない。氷の厚さは、ざっと10cm程度でしょうか。皆さん、岸から相当離れた場所でスケート靴でゴリゴリと氷を削りながら滑り回り、アイスホッケーパックと一緒に氷もたたき、時々思い切り転んでいる。大丈夫でしょうか……。この日の朝の気温はマイナス14度。地元の人はこの気温でも何時間も外に滞在できるようですが、筆者は最大1時間

まで。撮影のために手袋を外せるのも3分程度まで。早々に退散しました。

マイナス10度を下回る外気温の中から20度前後の室内に入ると、内外の気温差が30度以上のため、室内で汗をかいてしまいます。特に外を10分以上歩き回ったあとで室内に入ると、汗びっしょりに。それを避けるために筆者は冬でも自転車通勤しているのですが、雪や氷が残っていると自転車の走行がなかなか難儀です。不慣れな路面の上をそろりそろりと進む筆者の脇を、地元の人には信じがたいスピードでびゅんっと飛ばしていく。皆さん雪に慣れている、ドイツは実は雪国だったんですね。在ドイツ歴が30年を超える同僚Mによれば、冬には雪で道路が覆われているのが昔は普通だったそう。

マイナス14度のイングリッシュガーデンを歩いているときに、キツツキがカ・カ・カ・カ・カ・カ・カーンと家作りに励む音が聞こえてきました。ああ、あともう少しで普通に自転車をこげるようになる……。

## 筆者紹介



稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。

1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe設立。日本企業・ヨーロッパ企業からの特許出願業務・中間処理業務・異議申立・鑑定・特許無効化の手続・侵害品ウォッチング・契約書作成・係争案件などを扱う。

趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。